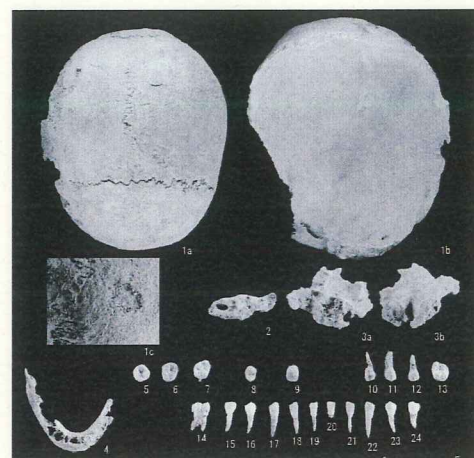




平成 27 年度の調査でみつかった墓（北から）



墓からみつかった頭蓋骨と歯

調査の概要

今回の第三次調査は、平成 26 年度の試掘調査において確認されていた炭化物埋納土坑（1 トレンチ）と、礫集積土坑（2 トレンチ）を中心に調査を進めています。

①炭化物埋納土坑

東に下る主要斜面で検出した当遺構は、標高 304 m に立地し、径約 80cm の円形を呈しています。検出面は南東に下る傾斜地で、1～2 cm 大の炭化物が埋められています。当遺構は、樹種分析と年代分析を実施する予定となっており、遺構が造られた当時の植生を知る上で重要なデータになるでしょう。

②礫集積土坑

昨年度見つかった墓と同一平坦面に立地し、標高は約 309 m を測ります。平面形は東西に長軸をもつ長径 1.7 m、短径 1.3 m の楕円形を呈します。

遺構を封ずるかのように上面には花崗岩割石が置かれており、石を割る際に用いる矢穴の痕跡が残っている石材も見受けられます。2 cm 以下の剥片状の割石もみられることから、この遺構の上で割石作業をおこなっていたことは明らかです。

今後、調査を進めていく上で、何のために遺構の上で割石作業をおこなう必要があったのかなどを解明していく予定です。

まとめ

今回の調査では、小規模な採石土坑と考えられる穴のほかに炭化物を多く含む穴を調査しました。今回みつかったこれらのお墓以外の遺構は、千提寺菱ヶ谷遺跡の性格を明らかにする上で、新たな一面をみせてくれました。



茨木市教育委員会 教育総務部 社会教育振興課

〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目 8 番 13 号

TEL. (072) 620-1686 社会教育振興課（直通）

FAX. (072) 620-6100

Mail. syakaikyoiiku@city.ibaraki.lg.jp

平成 28 年 7 月 23 日 印刷・発行

千提寺菱ヶ谷遺跡（第三次）現地説明会資料

平成 28 年 7 月 23 日（土）

午後 1 時・午後 3 時～（説明）

調査地 大阪府茨木市大字千提寺 36 番 8

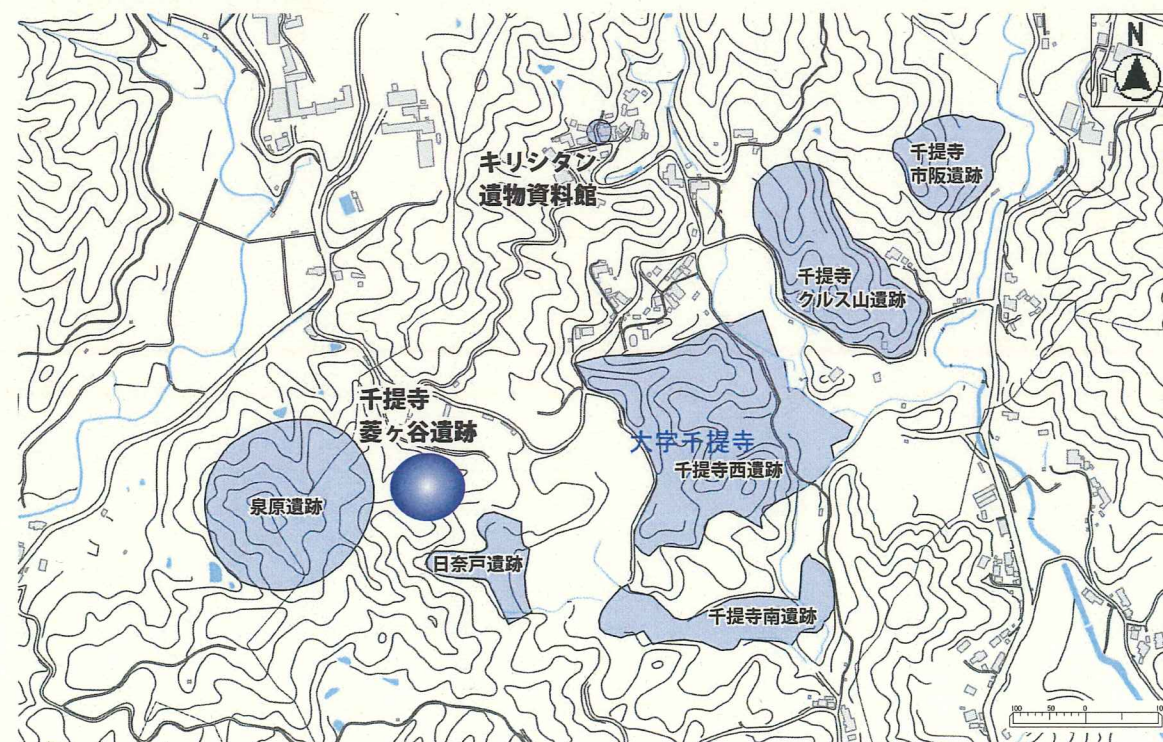
調査期間 平成 28 年 5 月下旬～8 月中旬（予定）

調査機関 茨木市教育委員会 教育総務部 社会教育振興課

ごあいさつ

茨木市教育委員会では、平成 26 年 9 月より埋蔵文化財の有無を確認するため山の尾根筋に「十字」状のトレンチを設定して調査を実施しました。その結果、20 基を超える遺構を確認し、新規発見の遺跡「千提寺菱ヶ谷遺跡」として周知されました。つづく同年 11 月より第一次調査を、平成 27 年 4 月より第二次調査を実施し、頭蓋骨だけが残っている墓をはじめ、斜面を切りだして平坦面を造った痕跡を確認しました。今回の第三次調査では、これまでの成果とは異なる遺跡の顔がみられました。とくにご覧ください。

なお、昨年度（平成 27 年度）に頭蓋骨と歯の自然科学分析を実施したところ、これらは「何らかの疾病」を患った「熟年男性」で、「江戸時代前期以降」に出生した人物であることが分かりました。



調査地の位置と周辺の遺跡

千提寺菱ヶ谷 map



※灰色のトレンチは、現在埋め戻しているため、ご覧いただけません。

1トレンチ

試掘の段階でみつかった穴をさらに詳しく調査するために設定しました。主に燃えカスがたくさん入っている穴を調査しています〔炭化物埋納土坑〕。



1トレンチの様子 (西から)



燃えカス (炭化物)

穴の中に燃えカス (炭化物) がたくさん入っています。燃えカスは、時期を特定するのに役立つほか、当時の植生の推定にも役立ちます。

2トレンチ

試掘の段階で割られたような石が沢山散らばっている穴をみつけていました。その様子を詳しく調べるために設定しました。〔礫集積土坑〕



2トレンチの様子 (西から)



ほしし 端石

コッパ材

ほがん 母岩

大きな石 (母岩) とそれを打ち割った様子がわかります。細かな破片は細工を行ったときにできたカスと考えられます。